

# ケータイを利用した授業評価と評価結果の公開及び活用

長崎県立大学 経済学部 大塚 一徳, 東海大学福岡短期大学 八尋 剛規

ootsuka@nagasakiu.ac.jp

## 1. はじめに

現在, 大学にあっては, 自己点検・自己評価の一環として学生の授業評価が広く行われるようになってきた。この学生による授業評価は, 授業態度や授業内容の理解度などに対する自己評価と教授法や教師の授業態度などに対する教授法評価という2つの授業評価内容で行われることが多い。教師は, この授業評価結果をもとに授業の改善を試みるものである。本研究においてもこの2側面を測定している。

大塚ほか(2000)は, コンピュータ実習授業における毎回の授業評価の実施とそれによる授業改善を目的としたWebを利用したリアルタイム授業評価システムを開発し運用した。その結果, 毎回の授業においてリアルタイムな評価情報の収集や評価結果の公開が可能となり, 教授法や授業内容の改善などに有効に利用できることがあきらかになった。

さらに, 八尋・大塚(2002)は, コンピュータ環境が利用できない普通教室などでも本システムを運用し授業評価を可能とするために, Web ブラウジング機能をもった携帯電話(以下, ケータイ)からも利用できるようなシステムの改良を行った。大塚ほか(2003)は, 講義科目において携帯電話のWeb ブラウジング機能を利用したリアルタイム授業評価システムを運用し, 本システムの有効性について検討を行った。その結果, ケータイを利用した該当授業に関する自由記述文字入力, パーソナルコンピュータ(以下PCと略す)でキーボードを利用する場合と同様に有効であることが示された。

毎回の授業評価は, 教師, 学習者の両方に授業の意識化を促し, 特に自由記述の評価内容は授業改善の具体的手段の提供につながる事が指摘されている(大塚・三尾 1999)。また, 授業評価結果の蓄積と分析を継続的, 科目横断的に行うことによって, 授業の特徴や授業改善のための情報を把握できる(大塚・三尾 1999)と考えられる。

一方, 自分自身の授業評価結果を閲覧しその後の学習に役立て, 他の学習者の授業評価結果を閲覧し自分

自身の学習に役立てるといった新しい授業評価結果の活用法も考えられる(大塚, 2004)。こういった毎回の授業評価結果の公開は学習者自身による授業評価結果への関心や利用は, 授業評価結果の新しい利用法を示唆するものである。

本研究では, ケータイを利用した授業評価の運用における評価結果の公開について, 実践結果をもとに分析し検討することを目的とする。

## 2. 研究方法

### 2.1 授業の概要

本研究において分析の対象となるWebとケータイを利用したリアルタイム授業評価を実施した授業の概要は, 以下のとおりである。

授業形態 講義(金曜日午後1コマ)。

授業内容 教育心理学。

実施期間 2003年度秋学期

(2003年10月~2004年2月)。

受講生 公立大学2~4年生

(社会福祉系学部)。

受講者数 78名。

授業環境 一般的な講義室であり, 黒板, ビデオ, OHC, プロジェクタが利用可能, なお一部の授業ではコンピュータ実習室も利用。

授業評価実施回数 学期後半の6回

講師 著者のうちの1名

授業評価の実施に関しては, 本システムの説明と授業評価を実施する趣旨の説明を行った。趣旨説明の中で, 毎回の授業評価結果を授業改善に役立てたいこと, 授業評価は必須であることについて説明を行った。また, 一部の携帯電話機種以外は携帯電話から授業評価が可能であること, PCからも可能であることを説明し, 操作法について簡単な説明を行った。授業評価を実施した授業では, 授業の最後に再度, 授業終了後できるだけはやい授業評価の実施を受講生に依頼した。

### 2.2 システム構成

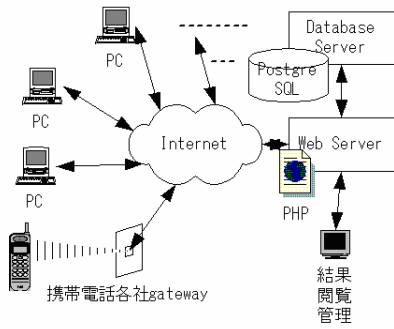


図1 システムの構成

システムはWebサーバ上に構築した．データベースエンジンに PostgreSQL，Web インタフェースとデータベースを仲介するハイパーテキストプロセッサに PHP 3 を利用した．図1は，システム構成を示したものである．Web クライアントから本システムにアクセスすると授業評価入力フォームが表示される．必要事項を入力後，サーバに送信する（八尋・大塚 2002）．

図2は，携帯版の授業評価入力画面の一部である．まず，Q1 自由記述式入力項目フォームが表示される．次に，選択項目入力フォームにおいて，プルダウン形式の選択項目入力フォームが Q2～Q6，Q7～Q11，Q12～Q15 の順に3度遷移する．

### 2.3 評価項目

本研究で利用した授業評価項目においては，Q1 が記述式（任意文字数入力可能），Q2，Q3，Q14 及び Q15 は，受講生自身の自己評価項目（10：良～1：悪），Q4～Q12 は，受講生による教授法評価項目（3：良～1：悪）である．本研究における評価内容は東海大学で実施された Minute Paper の評価項目の内容をもとに，本授業用に修正したものである．評価項目内容の修正にあたっては，携帯版での運用を考慮して，冗長性のない表現で，簡潔な内容となるように考慮した．

### 3. 結果と考察

図3に示される授業評価結果へのアクセス Web サイトを構築し，授業評価結果へのアクセスを可能にした．公開した授業評価結果は，Q1 自由記述式入力であり匿名とした．また，Q1 に入力された各質問に対する教員からの回答を掲載した回答掲示板を設置した．上記両サイトともケータイから閲覧可能な Web サイトである．

#### 3.1 評価結果閲覧者数

78名の受講者中29名が授業評価結果を閲覧していた．29名の閲覧者の平均アクセス数は，15回で

最大は51回，最低は1回のアクセス数であった．

#### 3.2 ページ別アクセス数

評価結果閲覧サイトへの総アクセス数は435回であった．その内，Q1 自由記述項目の閲覧回数は357回（82%），回答掲示板の閲覧回数は78回（18%）であった．

#### 3.3 端末別アクセス数

評価結果閲覧サイトへの端末別アクセス数は，学内PCからが86回（20%），学外PCからが139回（32%），ケータイからが210回（48%）であった．

上記の分析から，授業評価結果の公開と評価結果に関する回答掲示板を一部の学生が利用し，またケータイから該当サイトへのアクセスがあったことが示された．

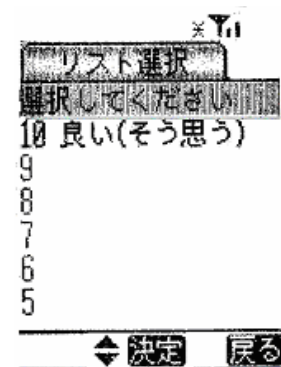
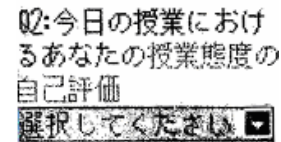


図2 携帯版授業評価入力画面の一部

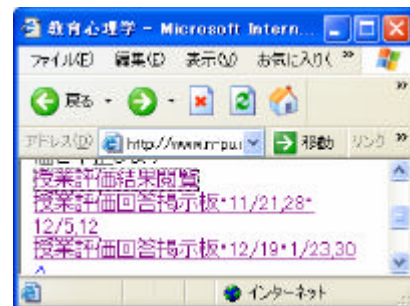


図3 授業評価結果へのアクセス画面

（引用文献省略）

本研究の一部は，平成16年度文部科学省科学研究費基盤研究（C）（2）（課題番号 16500597）の補助を受けた．ここに記して謝意を表する．